

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題・古文 1 題・漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	-----------------------	------	-------

昨年度は、現代社会の「身体イメージ」を論じた文章と、「音楽」に関する文章とが出題されたが、今年度は、死をめぐる人間のあり方を論じた哲学的なエッセイと、「法学」を論じつつ、人間の現実的なあり方を述べた文章が出題された。また、設問では、昨年度は指示語問題や抜き出し問題などはなかったが、今年度は、指示語に絡んだ問題や抜き出し問題が出題された。定番となった「文章全体の論旨を踏まえて」という問題も大問一の間五で出題された。大問一・大問二ともに、本文の読解はそれほど難しくないが、解答が書きにくい問題もあった。全体としては、昨年度と同程度と言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	中真生「喪失という攪乱——死別を中心に」 (荒畑靖宏・吉川孝編著『あらわれを哲学する 存在から政治まで』晃洋書房 2023 年所収)	長谷部恭男「科学的合理性のパラドックス」 (『歴史と理性と憲法と 憲法学の散歩道 2』勁草書房 2023 年 所収)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試で頻出する筆者である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約 3850 字	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約 3650 字
難易 前年比較	難易(易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	人間論	問一	記述	標準	漢字書き取り問題。例年 7 題の漢字書き取り問題が出題されていたが、今年度は 4 問になった。いずれも書けてほしい、平均的なレベルの漢字だと言えるであろう。
		問二	記述	やや難	傍線部に関する説明問題。生きていた人間が亡き人になった時に、生き残った側がどのような「仕方」で死者と関わるかということ、第二段落と傍線部 C を含む段落の前の段落などを視野に入れながら書く。
		問三	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部 B 直前の「この」が受けている傍線部 2 行前の内容に基づいて書く。
		問四	記述	標準	傍線部の内容説明問題。「自分を凌駕すること」「他者性」の説明を、傍線部 C を含む段落と、傍線部の次にあるルイスの引用文などを踏まえて書く。
		問五	記述	やや難	文章全体の論旨を踏まえた説明問題。設問文の「具体的」と「文章全体の論旨を踏まえて」という条件を意識し、引用されたフロイトの言葉や、「論旨」として問三で確認した内容などを書く。

二	学問論	問一	記述	やや易	傍線部に関する説明問題。設問文の「社会学者」という語句を踏まえ、傍線部Aの2行後から11行目までと、傍線部Bを含む段落の前の段落、及び傍線部Eを含む段落の直後の段落を中心に書く。
		問二	記述	難	傍線部に関する抜き出し問題。傍線部Cの1行前の「人は効用計算ではなく、理由にもとづいて行動する」なども本文の趣旨とも言えて解答の候補になるが、設問文の「状態」に最も合致するものを選ぶ。
		問三	記述	やや易	傍線部の内容説明問題。傍線部Cを含む部分が「かりに～としても」とあることと、傍線部Cの「形影相伴っている」という表現を踏まえ、「理由」と「効用」が一体であることを説明する。
		問四	記述	標準	傍線部に関する理由説明問題。傍線部Dを含む段落の4つ前の段落から、傍線部Dまでの内容を、筆者の立場を踏まえてまとめる。
		問五	記述	標準	傍線部に関する理由説明問題。傍線部Eを含む段落の後の段落から、最終段落までの内容を踏まえ、「個人の効用の最大化が目的である」、「真理を軽視する」、「学問的正当性を担保できない」ことを中心に書く。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンルの文章に触れ、限られた時間と字数条件の中で、的確に解答を作成する能力を養うこと。また、漢字書き取りで失点しないことも重要なので、日頃から漢字の練習を怠らないようにしましょう。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

鎌倉時代の紀行文、『海道記』(作者不詳)からの出題。本文は、ある家の柱に書かれていた藤原宗行の辞世の歌を見た作者が、承久の乱で捕らえられ殺された宗行の境遇に思いを馳せ感慨にふける場面である。設問は、現代語訳、内容説明(60字)、理由説明(50字)、歌の意味を問う問題からなる。2006年に文系統一問題になって以降、和歌の一首全体の意味を問う問題ははじめての出題であった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『海道記』(作者不詳)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <u>やや増加</u> ・増加) 607字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	紀行	問一	記述	標準	基本的な語句の意味理解と本文の文脈に合う訳出が求められている。
		問二	記述	標準	二重傍線部口の直前を踏まえて、作者と宗行との境遇を対比させてまとめる。
		問三	記述	標準	二重傍線部ハの直前の「其を見るは身の上の事なれば」を具体化してまとめる。
		問四	記述	やや難	和歌中の「浮嶋」に「憂き」が掛けられていることと、「つひの道」が「今日ばかりの命」(本文の終わりから三行目)と対応していることがポイント。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 基本的な単語や文法についてしっかり学習し、指示語の具体化や省略されている要素の補いに留意して、文脈を踏まえた上で、正しく本文を訳出できるような解釈力を身につける必要がある。
- ・ 内容説明や理由説明など典型的な記述型設問に対するトレーニングを積み重ね、問で求められていることを過不足なく盛り込み、与えられた字数でまとめることができる記述力を身につける必要がある。
- ・ 和歌や俳諧、古典常識などについても基本的な知識を習得しておく必要がある。

国語(現代文・古文・漢文) **北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】**

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

南北朝時代の祖沖之による『述異記』からの出題。本文は、蟹を捕えるための罟を設置した「王」という人物と「山操」との争いを記したもの。設問は、語句の読み、内容説明(三行型解答欄)、現代語訳、内容説明(75字以内)からなる。例年出題されていた「ひらがなのみでの書き下し文」を求める問題が、今年はお題されなかった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	祖沖之『述異記』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 212字 (昨年度は183字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	志怪	問一	記述	標準	基本的な語句の読み。b「許」、e「転」はやや難。
		問二	記述	標準	説明。仕掛けを修理したのに、修理前と同様な状態になっていたことに注目する。
		問三	記述	標準	現代語訳。「何をか〜べけんや」の反語形がポイント。
		問四	記述	やや難	内容説明(75字以内)。傍線部中の「知人姓名」と「能中傷人」の関連性をもとに、山操の「言動」と「意図」を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 儒家や道家などの思想に関するものや史伝、志怪小説など多様なジャンルの文章が出題されているので、問題演習を通じてさまざまな文章に触れておくとうい。
- ・ 本年は書き下しの問題が出題されなかったが、書き下しの問題にも十分注意しておきたい。語句の読みや書き下しで確実に得点するために、基本句形や重要語句の習得が必須である。
- ・ 現代語訳問題に対応するため、日頃から漢字の訓読みや熟語化を通して意味を把握する訓練をするうととも、文章の前後関係をふまえた訳を考える力を身につける必要がある。
- ・ 制限字数 75 字の記述問題は例年出題されるので、内容を字数内でまとめる練習が不可欠である。